

整理番号

D-1-4 525

標 題 名

病虫害予防奨励要報第 4 号 浮塵子駆除予防指針

著 者 名

発行者名

農商務省農務局

発 行 年

大正 15 年（1926 年）

製作年月

2025 年 7 月

大正十五年三月

農林省農務局編纂

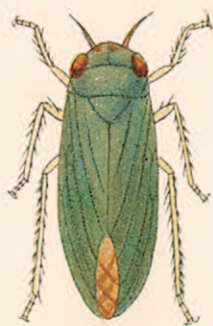
病蟲害豫防獎
勵要報第四號

浮塵子驅除豫防指針



版 圖 一 第

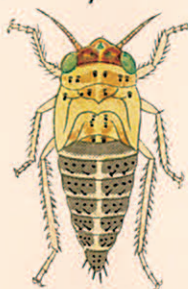
- 1 稈黑橫這成蟲雌(約八倍)
- 2 同上成蟲雄(約八倍)
- 3 稻葉鞘ノ組織内ニ産附セラレタル稈黑橫這ノ卵(約五倍)
- 4 稈黑橫這ノ卵(約十五倍)
- 5 同上幼蟲(約八倍)
- 6 同上幼蟲(約八倍)
- 7 同上幼蟲(約八倍)
- 8 同上加害ノ狀況(蟲ハ約三分ノ一)
- 9 稻葉橫這成蟲(約八倍)



1



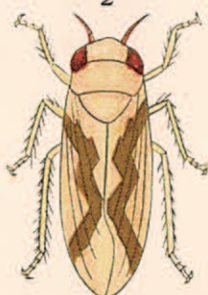
2



7



4



9



6



5



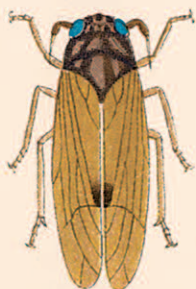
3



8

版 圖 二 第

- 1 姬鳶浮塵子成蟲(約八倍)
- 2 同上短翅型成蟲(約八倍)
- 3 同上卵(約十五倍)
- 4 同上幼蟲(約八倍)
- 5 同上幼蟲(約八倍)
- 6 同上雌ノ尾端
- 7 同上雄ノ尾端
- 8 鳶色浮塵子成蟲(約八倍)
- 9 背白浮塵子成蟲(約八倍)



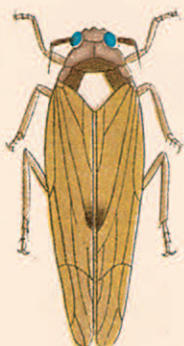
1



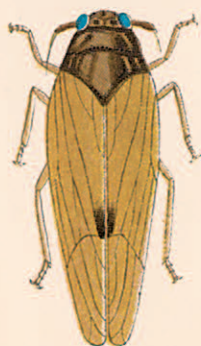
2



5



9



8



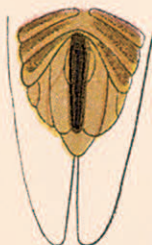
4



3



7



6

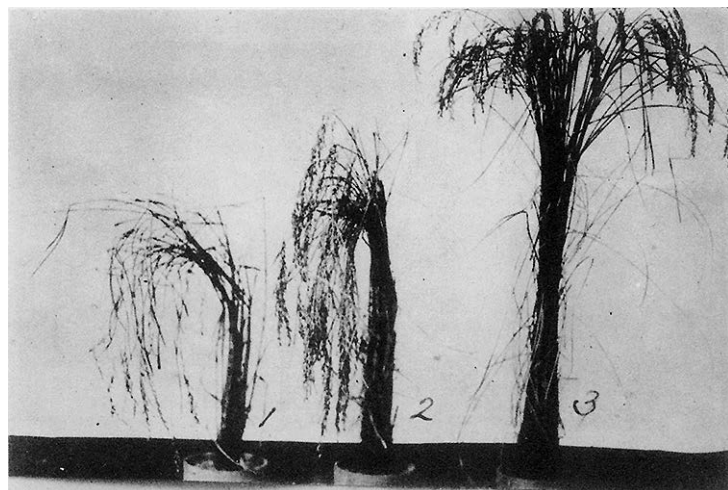
浮塵子被害狀況
一 穂孕前ノ被害(ツマゴヨバイ)



3、1
被害甚シキ稻株
同上少キモノ

4 2
同上中庸ノモノ
健全ナルモノ

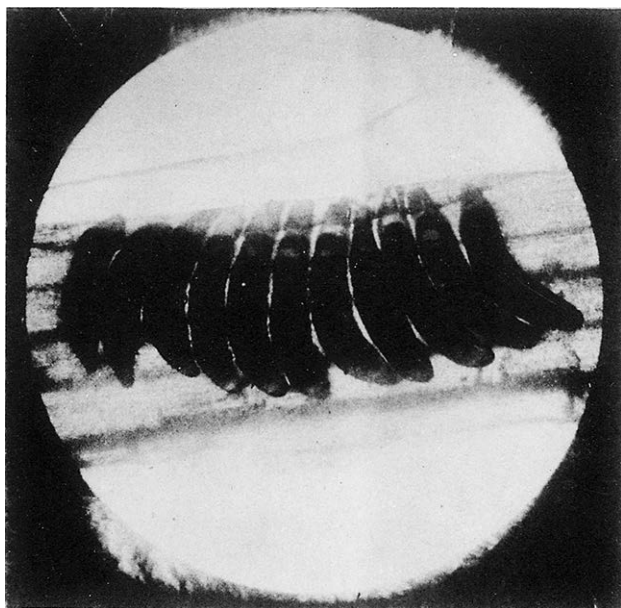
二期秋ニ於ケル浮塵子被害



3 1
被害甚シキ稻株
健全ナルモノ

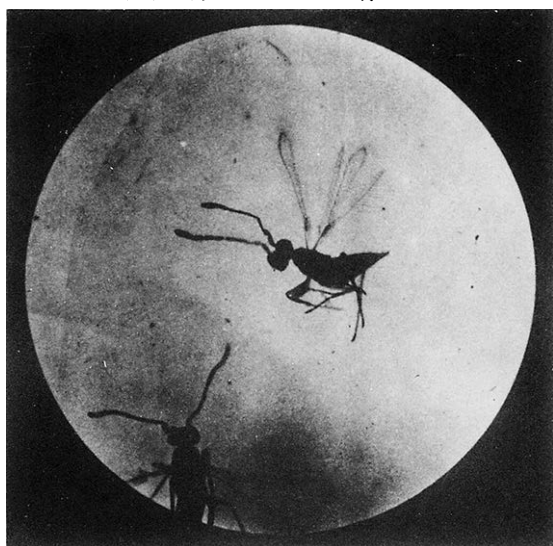
2
同上中庸ノモノ

卵ノ子塵浮白背
 (倍十三約) (狀ルモ卵産ニ中鞘葉)



第
 四
 圖

種一ノ蜂生寄卵子塵浮
 (倍十四約) (ノモルナ通普モ最)



稻浮塵子ノ驅除豫防ニ關シ當局者並

當業者ニ對スル要望

稻浮塵子ハ屢々突發的ニ大發生ヲナシ慘害ヲ及ホス害蟲ニシテ明治三十年ニ於テハ其ノ發生面積約二百八十萬町步減收額約六百萬石ノ巨額ニ達シタル記錄アリ近來驅除豫防ノ普及發達ニ依リ其ノ害著シク輕減スルニ至リ前述ノ如ク一般的ニ大發生ヲ見サルハ頗ル慶賀スヘキ現象ナリト雖尙局部的ニ八年々相當ノ發生ヲ爲シ其ノ損害多額ニ上リ驅除豫防ノ實施ニ關シテモ一層ノ注意ヲ要スト認ムル事項尠カラス是ヲ以テ浮塵子驅除豫防ノ詳細ニ關シテハ尙指導獎勵ニ俟ツコト多キ敢テ言ヲ要セス

本書ハ稻浮塵子ノ防除ニ關シ其ノ要綱ヲ簡明ニ記述シタルモノニ

シテ廣ク一般ニ配付シ該蟲驅除豫防ノ參考ニ資セムトス當局者並
當業者各位宜シク是ニ鑑ミ浮塵子驅除豫防ノ普及發達ニ對シ一層
力ヲ盡サレンコトヲ望ム

大正十五年三月

農林省農務局

目次

第一	稻ヲ害スル浮塵子ノ種類	一
一	棲黑横這	二
二	稻妻横這	三
三	姬鳶浮塵子	四
四	背白浮塵子	五
五	鳶色浮塵子	六
第二	浮塵子ノ被害	七
第三	浮塵子發生豫察法	八
第四	浮塵子ノ天敵	九
第五	浮塵子驅除豫防方法	一〇
I	捕殺法	一〇

II 注油驅除法	一〇
III 注油法以外ノ驅除法	一六
附 錄	一八

浮塵子驅除豫防指針

第一 稻ヲ害スル浮塵子ノ種類

浮塵子ノ種類多シト雖稻作ニ特ニ重要ナル關係ヲ有スルモノハ所謂浮塵子類ニアリテ
ハヒメトビ姫鳶、トビイロ鳶色、セツロ背白ノ三種ニシテ横這類ニアリテハツマダロ稜黑、イナヅマ稻妻ノ二種トス

一 稜黑横這

形態 成蟲ハ以下掲クル浮塵子中最モ大形ノモノニシテ體長雌ハ一分七厘乃至二分、
雄ハ一分五厘内外ナリ全體綠色ナルモ雌ハ前翅ノ先端淡灰色ニシテ雄ハ前翅ノ先端
黑色ヲ呈ス

幼蟲ハ孵化當時ハ淡黃色ナルモ三齡頃ヨリ雌ハ黃褐色、雄ハ帶黑黃褐色トナル卵ハ
長サ約三厘長橢圓形淡黃色ナリ

經過習性 通常年四五回ノ發生ヲナシ幼蟲態ニテ主トシテ畦畔堤塘ノ雜草又ハ紫雲英

等ノ中ニ越冬ス、卵ハ葉鞘ノ組織内ニ横位縦列ニ産下セラル一雌ノ産卵數ハ百餘粒乃至四百餘粒卵期ハ約十日幼蟲期二十五日内外ナリ成蟲ハ二十四日乃至五六日間生存シ雌ハ此間一日數粒乃至數十粒ノ卵ヲ産ス

越年セル幼蟲ハ三四月頃暖氣ノ加ハルト共ニ漸次活動ヲ始メ紫雲英田ノ「スバメ」ノ「テツボウ」其ノ他禾本科雜草ノ新緑ニ依リテ生長シ後苗代ニ集リ加害ス地方ニ依リ本蟲ハ稻萎縮病ヲ傳播シ被害特ニ大ナリ

苗代及本田移植當時並出穗期ニ被害著シキヲ普通トス

分布 北海道ニハ産セス本州以南ニ産ス

二 稻妻横這 イナヅマヨコバエ

形態 前種ヨリ小形ニシテ體長雌ハ一分五厘雄ハ一分二厘位、全體黃褐色ヲ呈シ前翅

ニ電光狀ノ紋アリ卵ハ長橢圓形、幼蟲ハ淡黃褐色ニシテ胸部ノ背面濃色ナリ

經過習性 一通常年四五回ノ發生ヲナシ卵ニテ越冬ス卵ハ稻ノ葉鞘又ハ中肋附近ニ點々

一粒宛産マル越冬卵ハ四五月ニ至リ孵化ス卵期ハ十日内外幼蟲期ハ十四五日乃至三十日位成蟲期ハ二十日乃至五六十日位トス

本種ノ發生區域ハ稍、局限セラルル傾向アリ被害ハ極メテ激甚ニシテ屢、稻ヲ枯死セシム

苗代及本田ニアリテ稻ヲ害スルコト棲黒ニ似タリ

分布 北海道ニハ産セス本州以南ニ産ス、東北地方ニハ稀ナリ

三 姫鳶浮塵子^{トメトビウシ}

形態 成蟲[●]灰褐色ノ小形種ニシテ體長雌ハ一分三厘雄ハ一分二三厘位全體灰褐色菱狀部ニ縦ニ三條ノ隆起線アリ其ノ内部ハ淡黃色ナリ雄ハ全體稍色濃クシテ菱狀部ハ漆黑色ヲ呈シ前翅ノ前緣ノ中央ニ黑紋アリ

卵[●]ハ葉鞘又ハ稻葉ノ中肋等ニ産マレ少シク彎曲シテ細長ナリ一端僅ニ尖リ長サ約二厘アリ

幼蟲ハ癭化當時淡黃色ナルモ成長スルニ從ヒ各節ニ淡黃黑色ノ斑點ヲ現ハス

本種中短翅種ト稱シ翅短クシテ尾部露出シ腹部著シク膨大セルモノアリ

經過習性 一年四回乃至五回ノ發生ヲ營ムヲ普通トスルモ氣候溫暖ナレハ五六回以上ノ發生ヲナス幼蟲態ニテ越冬ス一雌ノ產卵數三百數十粒ヨリ七百餘粒ニ及ヒ幼蟲成蟲共ニ莖葉ニ群集シテ汁液ヲ吸收ス卵期約十日幼蟲期十四五日乃至二十四日成蟲期二十四五日乃至四十日ニ及フ夏時高溫ノ際ハ產卵後十四五日ニシテ成蟲トナリ產卵亦迅速ナルヲ以テ俄然大發生ヲナスコトアリ短翅種ハ主トシテ三回發生頃ヨリ生シ活潑ニ飛跳シ能ハサルモ產卵甚タ多數ニ達シ繁殖力旺盛ナリ

分布 北海道ニ産セス本州以南ニ産ス

四 背白浮塵子^{セシロウシカ}

形態 「姬鳶」ニ似タルモ稍大形ナリ全體褐色ニシテ胸部ノ背面ハ長六角形ノ灰白黃色部アリ之ヲ本種ノ特長トス體長雌ハ一分五六厘雄ハ一分三四厘幼蟲ハ姬鳶ニ比シ稍

長形ニシテ尾端尖リ地色ハ乳白色ヲ呈ス卵ハ前種ニ似タリ短翅種アリ

經過習性 年中ノ經過姫鳶ニ似タリト雖苗代期ニ之ヲ認ムルコト少ク七月頃以降特ニ
八九月頃最モ著シク繁殖ス俗ニ「秋ウンカ」ト稱スル秋期ノ大被害ハ主トシテ本種ニ
基因スルヲ常トス

分布 北海道及本州以南ニ産ス

五 鳶色浮塵子^{トビイロウンカ}

形態 本種ハ前種ニ酷似スレトモ稍大形ナリ全體褐色ニシテ稍光澤ヲ有シ體長雌ハ一
分六七厘雄ハ一分四五厘アリ雄ハ少シク濃色ニシテ腹部第一節ハ淡黃色ヲ呈ス幼蟲
ハ卵共殆ント前種ニ似タリ短翅種アリ

經過習性 年四五回以上ノ發生ヲナシ普通前二種ト混棲ス
分布 北海道ニハ産セス本州以南ニ産ス

第二 浮塵子ノ被害

浮塵子ハ稻ノ莖葉ニ附着シ口吻ヲ組織内ニ插入シテ養液ヲ吸收スル故ニ多數發生スル場合ニアリテハ稻ハ著シク衰弱スルニ至ル主トシテ株際ニ近ク群集スレトモ出穂期ニ至レハ穂部ニ集リ養液ヲ吸收スルカ故ニ被害穂ノ粃ハ登熟スル能ハスシテ秕トナル此ノ際棲黒ノ發生多キトキハ穂ハ淡黒色ヲ帶フルニ至ル浮塵子ノ被害ハ通常最初苗代末期ニ於テ認メラレ次テ插秧當時稍激シキ被害ヲ見ルコトアリ八月上旬若クハ中、下旬（地方ニ依リテ異ル）以後ニ於ケル發生被害ハ俗ニ「秋ウンカ」ト稱シ被害最モ大ニシテ初メ稻ハ多少衰弱スルヲ以テ此ノ時稻株ヲ檢スレハ多數ノ浮塵子ハ幼蟲成蟲ヲ混シ稻莖ノ下部水面ヨリ五六寸迄ノ間ニ群棲セルヲ認ムヘシ斯クテ數日ヲ經ルヤ灰褐色ニ枯死シ僅カノ風ニモ倒伏シ收穫ヲ皆無ナラシムルヲ常トス

浮塵子ト稻萎縮病

前述セル如ク棲黒横這ノ被害ニハ地方ニ依リ稻萎縮病ヲ伴フ萎縮病ノ病徴トシテ分蘖

盛ナレトモ莖葉伸長セス色濃綠色トナリ葉面ニハ葉脈ニ沿ヒ微細ナル白色點ヲ羅列ス現今稻萎縮病ノ發生地トシテ知ラルルハ滋賀、岐阜、三重、静岡、京都、島根、岡山熊本、宮崎、千葉、宮城、新潟等トス而シテ本病原體並本病カ棲黑横這ニ依リ傳播スル經路ニ就テハ未タ明白ナラサルモ農林省農事試驗場ノ研究ニ依リ今日マテニ知リ得タル所左ノ如シ

一 萎縮病ノ發生ハ苗代期及移植後三十日頃迄ニ被害セラレタル稻ニ多ク夫レ以後ニ於テハ著シキ病徵ヲ發セサルヲ常トス

二 此ノ萎縮病ハ棲黑横這ノ加害ニ依リテノミ傳播ス棲黑以外ノ浮塵子ハ萎縮病ヲ傳播スルコトナシ

三 棲黑横這中萎縮病ヲ發生スル能力ヲ有スルハ萎縮病稻ヲ吸收シタルモノ及其ノ子孫ニ限ル

四 萎縮病稻ヲ吸收シ本病ヲ發生セシムル能力ヲ有スル棲黑横這ハ其ノ能力ヲ二三代ノ後マテ繼續ス

五 萎縮病ヲ起ス能力ヲ有スル棲黒横這モ健全ナル稻ノミヲ吸收シ居ルトキハ漸次其ノ能力ヲ減退ス

第三 浮塵子發生豫察法

浮塵子ノ害ハ急激ナルヲ常トスルカ故ニ如何ナル際ニ大發生アルヤヲ研究シ發生ヲ豫察スルハ驅除豫防上頗ル重要ナル問題ナリトス今浮塵子發生豫察法ヲ述フレハ次ノ如シ

(一) 氣候ノ狀態ニヨルコト 浮塵子ノ發生ニ適スル氣候ハ冬期間特ニ平年ニ比シ溫暖ナルコト(苗代期ノ發生)及夏期殊ニ七八月頃氣溫高ク曇天又ハ微雨ニシテ蒸熱ノ天候繼續スルコト(秋浮塵子ノ發生)

(二) 誘蛾燈又ハ燈火ニ來襲スル浮塵子ノ多少ニ依リ判斷スルコト

(三) 稻株ヲ檢シ成蟲、幼蟲又ハ産卵ノ有無及多少ヲ調査スルコト 此ノ際短翅種多數ナルトキ幼蟲及卵等多キトキハ近ク大發生スル虞アルコトヲ示スモノトス

(四) 被害狀況ニ依ルコト 田面ノ一部稻衰弱シ次第ニ枯色ヲ呈スルトキハ迅速ニ之ヲ驅除ヲ施行スルヲ要ス

(五) 圃場及稻ノ成育狀態ト浮塵子發生トノ關係ニ注意スルコト 而シテ左ノ場合ニ於テハ發生多キモノナリ

(イ) 一區域ノ耕地ニアリテハ比較的低濕ナル土地ニ多シ

(ロ) 日光空氣ノ流通惡シキ場所又排水不良ナル場所ニ多シ

(ハ) 同一田ニ就キテハ中央部ニ多ク周圍(畦畔ニ近キ所)ニ少シ

(ニ) 一株ノ被害部分ハ下部ニ多ク上部ニ少シ

(ホ) 稻ノ種類及品種ニアリテハ莖葉繁茂シ易キモノニ多ク特ニ糯ニ多シ

(ヘ) 窒素質肥料多キ場所特ニ晚出來ノ稻田ニ多シ

第四 浮塵子ノ天敵

一 卵ノ天敵 卵寄生蜂トシテ知ラルルモノ數種アリ口繪第四圖版ニ最モ普通ナル種

類ヲ示ス

一 幼蟲成蟲ノ天敵 數種ノ寄生蜂、寄生菌ノ外鱗翅蟲ノ一種及幼蟲等ノ寄生スルモノアリ其ノ他蛙、蜘蛛、蜻蛉等モ之ヲ捕食スルヲ見ル

第五 浮塵子驅除豫防方法

(i) 捕殺法

捕蟲網又ハ捕蟲器ヲ以テ成蟲幼蟲ヲ捕殺スル方法ニシテ特ニ苗代ニ於ケル驅除ニ適ス

(II) 注油驅除法

一 苗代ニ於ケル注油驅除

(イ) 淺水法 苗代ニ一寸位(可成淺キ方油害ナシ)水ヲ湛ヘ短冊ノ通路ノ所ニ反當リ一升五合乃至二升位ノ石油ヲ滴下スヘシ然ルトキハ油ハ直チニ擴散スルニ依リ篠竹ノ類ヲ以テ苗ヲ拂ヒ浮塵子ヲ墜落セシメ二三十分ヲ經テ灌水ト同時ニ

落水シ油分ヲ全ク流シ去ルヘシ此ノ際油分流去セサル間ニ深水トナストキハ苗ニ油害アルコトニ注意スヘシ

(□) 深水法 苗代ニ灌水シツツ之ニ長サ一寸内外ノ切藁ヲ撒布スヘシ而シテ水ノ深サハ苗ノ葉先ヲ沒スル程度ニ至ラシムヘシ然ルトキハ浮塵子ハ殆ント全部此ノ藁ニ移ルヲ以テ反當リ一升五合乃至二升位ノ石油ヲ滴下シ箒ノ類ヲ以テ此ノ藁ヲ適宜ニ掃キ寄せ捨テ去リ作業終レハ新水ヲ灌入シツツ徐々ニ落水シ油分全ク流出セル後平水ニ復スヘシ本法ハ淺水法ニ比シ手數多ク且灌水ニ便ナル所ニ非レハ行ハレ難キモ效果著シキモノナリ移植後屢々苗代跡ヲ中心トシテ浮塵子ノ蔓延ヲ見ルコトアリ故ニ苗代仕舞ノ際ニハ殘苗等ヲ其ノ中央ニ集メ反當ニ二升内外ノ石油ヲ滴下シ驅除ヲ行フヲ安全トス稻萎縮病發生地ニ於テ特ニ然リトス

二 本田ニ於ケル注油驅除

田水ヲ一寸位湛ヘ株間ニ反當一升五合乃至二升位ノ石油ヲ滴下シ穗孕前ニアリテ

ハ篠竹ノ類ニテ稻ヲ拂ヒ浮塵子ヲ水面ニ墜落セシムヘシ穗孕以後ニアリテハ足又ハ竹柄ノ藁箒等ニテ油水ヲ稻株ニ注キ懸クルヲ要ス後換水ヲナスコト苗代ノ場合ト同様ナリ

注油驅除ニ關スル注意事項左ノ如シ

(イ) 浮塵子驅除ニ最モ適當ナル油

效力最大價格又廉ナルヲ除蟲菊浸出石油(石油一升ニ對シ除蟲菊粉二十匁ヲ混シ二十四時間以上密閉時々振盪セルモノ)トシ效力相當ニシテ最モ得易ク且手數ヲ要セサルヲ石油トス故ニ一般ノ使用ニ對シテハ石油ヲ最モ適當トス兩者ニ次クヲ輕油重油トシ此ノ兩油ハ價格低廉殺蟲力モ相當強キモ地方ニ依リテハ急速ニ得難ク種類雜多ニシテ之カ鑑別ヲ誤ルトキハ効果薄弱ナルノミナラス稻ヲ損傷スルコトアリ故ニ此ノ點ニ特ニ注意スヘシ其ノ他ノ油類ニアリテハ多クハ價格不廉效果著シカラス輕油ト鯨油輕油ト菜種油トノ混合油等ニハ效力優レルモノアリト雖一般ノ使用ニ便ナルモノト云ヒ難シ坊間成分不明ナル效力如何ハ

シキ油類ヲ浮塵子驅除油トシテ販賣スルモノアリ輕々ニ使用セサルヲ安全トス

(ロ) 反當油量

除蟲菊浸出石油ニアリテハ一升乃至一升五合石油及輕油ニアリテハ一升五合乃至二升内外重油ニアリテハ二升乃至二升五合ヲ適當ト認ム

(ハ) 浮塵子ノ種類及經過ノ時期ト注油量

浮塵子ノ種類中油ニ對スル抵抗力最モ弱キハ姬鳶浮塵子ニシテ抵抗力最モ強キハ棲黑橫這トス概シテ橫這科ノモノハ浮塵子科ノモノニ比シ強キ傾向アリ又幼蟲ハ成蟲ニ比スレハ著シク抵抗力弱シトス實際ノ注油ニ當リ浮塵子ノ數種混發セル場合ニハ抵抗力強キ種類ノ死滅ヲ標準トシ幼蟲成蟲混在セル場合ニハ成蟲ノ死滅ヲ標準トスヘキナリ(附錄一、二、三參照)

(ニ) 注油驅除ニ適當ナル時期及時刻並天候

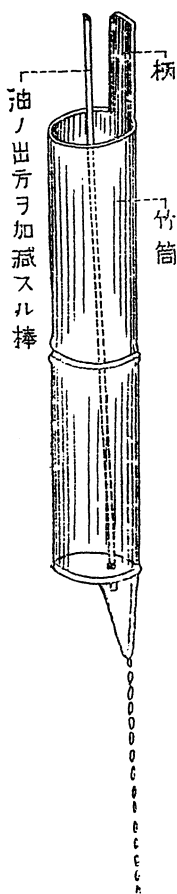
浮塵子ノ舉動不活潑ニシテ油ニ對スル抵抗力弱キ幼蟲多數ヲ占ムル時期ヲ可トスルモ浮塵子繁殖ノ兆アルトキハ之等ノ事ニ拘泥セスシテ可成速ニ施行スヘシ

施行ノ時刻ハ油ノ擴散力並浮塵子ノ運動活潑ナラサル早朝ヲ最モ可トシ天候トシテハ曇天又ハ晴天無風ノ日ヲ可トス風強キ日又ハ強雨ノ際ハ油分一方ニ流レ寄り之カ爲メ稻ヲ害スルコトアリ注意スヘシ

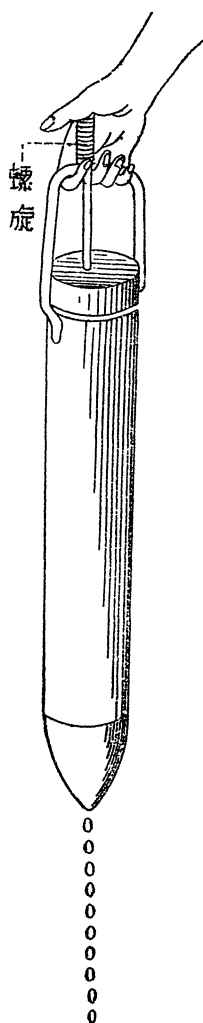
(木) 油ノ注下、蟲ノ拂落及排水

油ヲ注下スルニハ稻葉ニ附着セシメサル樣點々平均ニ注クヘシ之カ用具トシテハ苗代及移植當時ニアリテハ土瓶ノ如キモノニテモ可ナルモ稻相當生育後ニアリテハ第一圖ノ如キ注油器ヲ造リ用フレハ稻葉ヲ害スルコトナク且作業容易ナリトス(第二圖ハ注油器坊間販賣ノ一例ヲ示ス)

第一圖(自家製注油器)



第二圖（亞鉛製ニテ價格二十五錢内外）



注下サレタル油ハ直ニ水面ニ擴散スルヲ以テ速ニ蟲ノ拂落ニ着手スヘシ水温攝氏二十五度乃至二十八度ニ於テハ滴下直後ノ拂落ハ能ク八十五％ノ死滅ヲ認ムルモ三十分後ニアリテハ僅ニ五％、一時間後ニアリテハ全然死蟲ナキニ至ル何トナレハ石油類ハ擴散ト同時ニ揮發シ去ルニヨルモノニシテ是レ注油後直ニ拂落ヲ行フヲ可トスル所以ナリ拂落サレタル浮塵子ハ二分乃至二十分平均十分内外ニテ死滅スルモノナレハ拂落後ハ暫時ニシテ灌水シ油分ヲ排除スヘシ但シ排水シ得サル場合ト雖モ前述ノ如ク油分揮發シ去ルヲ以テ本田ニアリテハ反當ニ升内外ノ石油ニテ著シキ害ヲ被ルコト稀ナリ（附錄四及五參照）

(へ) 田面ノ雜草及浮草ハ油ノ效力ヲ減少セシムルヲ以テ注油前之ヲ除キ置クト

(ト) 田水永ク停滯シ水面ニ微細ナル浮游物多キトキハ油ノ擴散極メテ不良ナルモノナレハ注油前新水ト懸換フヘシ

(チ) 畦畔ノ雜草驅除ノ際浮塵子カ稻ヨリ移リテ潜伏スル處アレハ豫メ刈取り置クト

(リ) 一回驅除施行後ハヨク發生ニ注意シ模様ニヨリテハ一週間乃至十日後再ヒ施行スルヲ可トス

(III) 注油法以外ノ驅除法

田水缺乏シタル場合又ハ陸稻ニ對シテハ注油驅除ヲ施行シ能ハサルヲ以テ此ノ際ハ左ノ如キ藥劑驅除ヲ施行スヘシ

(一) 除蟲菊加用石油乳劑ノ五十倍乃至七十倍液又ハ石油乳劑ノ三四十倍液ヲ噴霧器ヲ以テ撒布スルコト

(二)除蟲菊石鹼液(除蟲菊粉二十匁石鹼二十匁水一斗)ノ撒布モ亦效アリ

(三)石油水 石油混合ポンプ(サクセス噴霧器ニ石油槽ヲ取附ケタルモノニシテ米國デミング會社製橫濱植木株式會社等ニテ發賣價格三十圓内外)ヲ用ヒ二―三%ノ石油水ヲ造リ撒布スルコト

(四)荷桶ニ水ヲ容レ一荷ニ對シ五勺乃至一合ノ石油ヲ投シ攪拌シツツ杓ヲ以テ稻ニ注キ掛クルコト本法ハ稻ノ幼小ナル場合及出穗期ニハ適用スヘカラス

凡ソ之等ノ藥劑驅除ハ濃厚ナルモノヲ少量使用スルヨリハ稀薄ナルモノヲ多量ニ灌注スル方效果著シキコトニ注意スヘシ

落水後ノ塵子驅除ハ最モ困難ニシテ經費勞力ヲ要スルコト夥シク而モ效果著シカラサルヲ常トスルモノナレハ氣候其ノ他ノ關係ニ依リ浮塵子發生ノ虞アル場合ハ驅除ニ要スル用水ニ事缺カサル様豫メ注意シ置クコト最モ肝要ナリトス

附 錄

左ニ掲クルハ本省農事試驗場ニ於テ本省ノ委託ニ依リ施行セル浮塵子驅除ニ關スル
試驗成績ノ拔萃ナリ

一、浮塵子幼蟲對各種油類効力比較試驗成績

油ノ種類	四十一年平均成績		大正元年平均成績		大正二年平均成績		總平均成績		位順總成
	幼蟲ノ死滅率	幼蟲ノ全滅ニ要スル油ノ量	幼蟲ノ死滅率	幼蟲ノ全滅ニ要スル油ノ量	幼蟲ノ死滅率	幼蟲ノ全滅ニ要スル油ノ量	幼蟲ノ死滅率	幼蟲ノ全滅ニ要スル油ノ量	
石 油	七七・八%	一、一升	四〇・〇%	二、二升	八九・二%	一、二五	六九・三%	一、七五	三
輕 油	八〇・〇%	一、〇升	七四・〇%	三、〇升	九〇・八%	一、二五	八一・六%	一、七五	二
除蟲菊浸出石油	一〇〇・〇%	〇・五	八一・五%	二、〇	九四・〇%	一、二五	九一・九%	一、二五	一
重 油	五二・八%	二、〇	三九・九%	二、〇	六五・八%	二、七五	五二・八%	二、三八	四
菜 種 油	四四・〇%	〇	三四・二%	〇	三五・〇%	〇	三七・八%	〇	五
大 豆 油	二・〇%	〇	三二・五%	〇	四〇・〇%	〇	三〇・八%	〇	七
魚 油	三三・〇%	〇	二六・六%	〇	一五・〇%	〇	二四・九%	〇	八
鯨 油	五〇・一%	〇	三〇・八%	〇	二五・九%	〇	三五・六%	〇	六

二、浮塵子成蟲對各種油類効力比較試驗成績

油ノ種類	四十四年平均成績		大正元年平均成績		大正二年平均成績		總平均成績		成績順位
	成蟲ノ死滅率 成蟲ノ全滅ニ要スル油ノ最少反當用量	升	成蟲ノ死滅率 成蟲ノ全滅ニ要スル油ノ最少反當用量	升	成蟲ノ死滅率 成蟲ノ全滅ニ要スル油ノ最少反當用量	升	成蟲ノ死滅率 成蟲ノ全滅ニ要スル油ノ最少反當用量	升	
石油	五七・九%	二・〇	四一・六%	二・五	七二・五%	二・〇	六七・三%	二・一七	二
輕油	七三・八%	二・〇	七四・〇%	二・五	七四・五%	二・〇	七四・一%	二・一七	三
除蟲菊浸出石油	九五・〇%	〇・八	八〇・五%	一・二五	八五・二%	一・〇	八六・八%	一・〇二	一
重油	七〇・四%	二・五	四七・五%	二・五	六二・五%	二・〇	六〇・一%	二・三三	四
菜種油	六九・七%	二・三	三三・三%	三・〇	四三・四%	四・八	四八・八%	四・八	七
大豆油	六三・一%	二・五	四一・四%	三・〇	四五・〇%	四・九	四九・八%	四・九	五
魚油	七四・八%	二・一	二四・一%	四・三	四三・〇%	四・七	四七・三%	四・七	八
鯨油	八一・七%	二・〇	二四・〇%	四・三	四三・三%	四・九	四九・七%	四・九	六

備考 死滅率ハ反當五合ヨリ、五合増ニテ三升ニ至ル六回試驗ノ平均

三、浮塵子ノ種類ニ對スル石油ノ反當用量査定試驗成績

供試品種	第一回成績	第二回成績	第三回成績	平均成績	成績順位
ツマクロヨコバイ	二・五〇	二・〇〇	二・五〇	二・三三	三
ヨツモンヨコバイ	一・五〇	一・五〇	二・〇〇	一・六七	二

ヒメトビウシカ	一、五〇	一、五	一、五〇	一、五〇	一
備考 浮塵子成蟲對各種油類効力比較試驗ニ比シ多少ノ差異アルハ主トシテ施驗試行當時ノ天候其ノ他ノ異ナル事情ニヨル					

四、浮塵子ノ各種油ニ接觸後死ニ至ル迄ノ時間査定試驗成績

油ノ種類	油ノ反當 用 量	觸油後死ニ至ル時間		平均	成績	備考
		最 短	最 長			
石 油	二、〇升	二、二分	二、二分	一一、五分	六	
輕 油	二、〇	二	二	二	一	
除蟲菊浸出石油	一、五	二	二	二	一	各種油ノ反當リ用 量ハ全減ニ要スル 最少量ヲ標準トセ リ
重 油	二、五	三	一八	一〇、五	五	
菜 種 油	三、〇	五	一三	九	四	
大 豆 油	三、〇	五	一〇	七、五	二	
魚 油	三、〇	四	二四	一四	七	
鯨 油	三、〇	四	一二	八	三	

五、浮塵子驅除油類滴下後掃ヒ落シスル迄ノ時間ノ長短ト効力ノ比較試驗成績

[illegible]

大正十五年三月二十九日印刷
大正十五年三月三十一日發行

【正價金四拾錢】

農林省農務局

東京市赤坂區溜池町一番地

大日本農會主事

發行者 岡村猪之助

印刷者 東京市麴町區紀尾井町三番地
甲田藤太郎

印刷所 東京市麴町區紀尾井町三番地
東京印刷株式會社麴町出張所

東京市赤坂區溜池町一番地

發行所 大日本農會

植物防疫資料館

C-651-51+1008

秋野浩二
寄贈

D

1-4

525